



## 2022年3月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

2022年2月8日

上場会社名 宮地エンジニアリンググループ株式会社  
 コード番号 3431 URL <https://www.miyaji-eng.com/>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 青田 重利

問合せ先責任者 (役職名) 企画・経理部長 (氏名) 遠藤 彰信

TEL 03-5649-0111

四半期報告書提出予定日 2022年2月9日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2022年3月期第3四半期の連結業績(2021年4月1日～2021年12月31日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年3月期第3四半期	42,770	5.0	4,669	18.4	4,831	21.4	2,606	4.4
2021年3月期第3四半期	40,739	12.8	3,944	2.7	3,978	0.3	2,495	14.4

(注) 包括利益 2022年3月期第3四半期 3,353百万円 (3.4%) 2021年3月期第3四半期 3,242百万円 (15.1%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年3月期第3四半期	382.97	
2021年3月期第3四半期	366.68	

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年3月期第3四半期	63,146	37,665	51.1
2021年3月期	60,738	35,006	49.6

(参考) 自己資本 2022年3月期第3四半期 32,282百万円 2021年3月期 30,147百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年3月期		0.00		80.00	80.00
2022年3月期		0.00			
2022年3月期(予想)				140.00	140.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有

### 3. 2022年3月期の連結業績予想(2021年4月1日～2022年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	60,000	8.6	5,400	1.8	5,500	0.9	3,000	21.2	440.82

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

## 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は、添付資料P. 8「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3)四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料P. 8「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3)四半期連結財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)

2022年3月期3Q	6,919,454 株	2021年3月期	6,919,454 株
------------	-------------	----------	-------------

期末自己株式数

2022年3月期3Q	114,039 株	2021年3月期	113,818 株
------------	-----------	----------	-----------

期中平均株式数(四半期累計)

2022年3月期3Q	6,805,575 株	2021年3月期3Q	6,805,668 株
------------	-------------	------------	-------------

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

## 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 2「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	2
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(会計方針の変更)	8
(セグメント情報等)	9
3. 補足情報	10
生産、受注及び販売の状況(連結)	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症による厳しい状況が徐々に緩和される中で、このところ持ち直しの動きがみられます。

公共投資は底堅く推移しており、当社グループの主力である道路橋・鉄道橋などの橋梁事業の当第3四半期連結累計期間の総発注量は、前年同期実績を上回りました。

このような環境下、受注高につきましては、高速道路の更新工事などにより407億42百万円となりましたが、前年同期に大型工事の受注があったことから前年同期比27.6%減となりました。

売上高につきましては、手持ち工事が概ね順調に進捗したことにより427億70百万円（前年同期比5.0%増）となりました。

損益につきましては、工場構内ヤードの有効活用促進などの生産効率化、工事採算性向上の取り組み、働き方改革による業務効率化などにより、営業利益は46億69百万円（同18.4%増）、経常利益は48億31百万円（同21.4%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は26億6百万円（同4.4%増）となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

(宮地エンジニアリング)

受注高につきましては、前年同期に大型工事の受注があったことから、208億13百万円（同32.2%減）となりました。

売上高につきましては、手持ち工事が概ね予定どおりに進捗したものの、247億2百万円（同11.5%減）となりました。

損益につきましては、生産の効率化、工事採算性の向上などに取り組んだものの、営業利益は26億69百万円（同12.7%減）となりました。

(エム・エムブリッジ)

受注高につきましては、前年同期に大型工事の受注があったことから、199億26百万円（同22.2%減）となりました。

売上高につきましては、手持ち工事が順調に進捗し、181億71百万円（同41.1%増）となりました。

損益につきましては、売上高の増加に伴い、営業利益は20億8百万円（同114.8%増）となりました。

### (2) 財政状態に関する説明

資産合計は、前連結会計年度末と比較して24億8百万円増加し、631億46百万円となりました。主な要因は、現金預金が51億66百万円増加し、受取手形・完成工事未収入金等が32億70百万円減少したためであります。

負債合計は、前連結会計年度末と比較して2億50百万円減少し、254億81百万円となりました。主な要因は、支払手形・工事未払金等が15億4百万円増加した一方で、工事損失引当金が2億13百万円、賞与引当金が3億56百万円、流動負債のその他に含まれる未払金が11億10百万円それぞれ減少したためであります。

純資産合計は、前連結会計年度末と比較して26億58百万円増加し、376億65百万円となりました。主な要因は、利益剰余金が20億61百万円、非支配株主持分が5億23百万円それぞれ増加したためであります。

### (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

わが国経済の見通しにつきましては、感染対策に万全を期し、経済社会活動を継続していく中で、各種政策の効果や海外経済の改善もあって、景気が持ち直していくことが期待されます。ただし、感染症による影響や供給面での制約、原材料価格の動向による下振れリスクに十分注意する必要があります。また、金融資本市場の変動等の影響を注視する必要があります。

今般日本政府は「成長と分配の好循環による新しい資本主義」の実現に向けて、過去最大となる今回の補正予算に22項目の成長戦略を織り込みました。そして、その多くは道路、港湾、空港、鉄道などの交通・物流インフラへの投資であり、今後も世界に負けない大胆な財政出動による内需拡大、経済成長が期待されます。

当社グループの主力である道路橋・鉄道橋などの橋梁事業において、新設橋梁は、厳しい受注競争が続いている一方で、今後10年で4兆円規模の事業が計画されている高速道路会社の大規模更新工事ならびにハイブリッドケーソン・浮体構造物・沈埋函などの沿岸構造物事業、シールドトンネル向けの鋼製セグメント事業などは、質的にも量的にも高い技術力と施工能力が求められていることを考えれば、中期的に当社グループが飛躍する事業環境であると考えます。

ならびに鉄道事業についてはコロナ禍で厳しい事業環境に置かれていますが、首都圏ではターミナル駅の再開発事業や連続立体交差事業、大型跨線橋やJR・私鉄各社の高架化、改築工事などを中心に数多くの計画が予定されており、高難度工事における当社グループのもつ安全・安心な技術力が強みを発揮できるものと考えています。

このような事業環境のなか、グループとしての経営管理体制を一層強化し、より強固な収益基盤とするよう、グループの中核である宮地エンジニアリング株式会社とエム・エムブリッジ株式会社と「共に成長する」を、協力

会社と「共に歩む」を基本に更なる事業発展を図ってまいります。

国内の鋼橋市場の変化・動向を踏まえ経営資源を新設橋梁、大規模更新工事、民間工事に選択と集中を行い、技術開発やDX（デジタルトランスフォーメーション）に基づく生産性向上と働き方改革を進めてまいります。

また、当社子会社の宮地エンジニアリング株式会社では、2018年度から2021年度までの4年間の予定で千葉工場に係る総額50億円程度の設備投資を計画し着手しましたが、新型コロナウイルス禍に伴い、経済や企業活動の先行きに不透明感が増したため、生産性向上やコスト削減、業務効率化などに直結する投資は継続する一方で、計画中の新たな投資については延期しております。今後の事業環境を見極めた上で投資の再開を決定いたします。

なお、通期の連結業績予想につきましては、工場の生産性向上、現場工事の採算性向上、働き方改革による事務効率化などの取り組みを積上げたことにより、2021年5月14日公表の予想数値を下記のとおり変更しております。

また、期末配当予想につきましては、株主の皆様の日頃のご支援にお応えするため、連結配当性向の水準を従来の20%程度から30%程度まで引き上げることにより、従来の1株当たり80円の期末配当予想を140円に修正いたします。詳細は本日公表の「2022年3月期（第19期）配当予想の修正のお知らせ」をご参照ください。

2022年3月期通期連結業績予想数値の修正（2021年4月1日～2022年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想（A）	60,000	4,500	4,500	2,700	396.73
今回修正予想（B）	60,000	5,400	5,500	3,000	440.82
増減額（B－A）	－	900	1,000	300	－
増減率（%）	－	20.0	22.2	11.1	－
（ご参考）前期実績 （2021年3月期）	55,268	5,501	5,547	3,808	559.63

当社は、2022年4月の東京証券取引所プライム市場への移行を機に、本年6月開催予定の定時株主総会において、経営の透明性・公正性の向上をはじめとしたコーポレートガバナンスの一層の向上を目的として、独立社外取締役の割合を過半数とする予定です。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金預金	8,516,686	13,683,100
受取手形・完成工事未収入金等	30,843,945	27,573,042
未成工事支出金	752,875	612,210
その他	1,106,224	1,805,470
流動資産合計	41,219,731	43,673,824
固定資産		
有形固定資産		
土地	7,598,943	7,671,518
その他(純額)	5,315,724	5,186,206
有形固定資産合計	12,914,667	12,857,725
無形固定資産	305,924	297,083
投資その他の資産		
投資有価証券	4,979,431	5,053,308
その他	1,348,194	1,294,579
貸倒引当金	△29,690	△29,690
投資その他の資産合計	6,297,936	6,318,198
固定資産合計	19,518,528	19,473,006
資産合計	60,738,259	63,146,831
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形・工事未払金等	8,526,988	10,031,723
短期借入金	2,500,000	2,500,000
1年内返済予定の長期借入金	—	300,000
未払法人税等	1,022,607	810,085
未成工事受入金	3,322,654	3,544,356
完成工事補償引当金	584,926	618,593
工事損失引当金	1,859,700	1,646,100
賞与引当金	748,778	392,228
その他	2,090,880	966,786
流動負債合計	20,656,534	20,809,875
固定負債		
長期借入金	300,000	—
再評価に係る繰延税金負債	1,639,718	1,639,718
引当金	141,300	167,044
退職給付に係る負債	2,781,210	2,706,483
その他	213,054	158,613
固定負債合計	5,075,284	4,671,859
負債合計	25,731,818	25,481,734

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,000,000	3,000,000
資本剰余金	3,746,206	3,746,206
利益剰余金	18,720,714	20,782,608
自己株式	△230,586	△231,226
株主資本合計	25,236,334	27,297,589
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,831,106	1,880,760
土地再評価差額金	3,240,566	3,240,566
退職給付に係る調整累計額	△160,806	△136,722
その他の包括利益累計額合計	4,910,866	4,984,604
非支配株主持分	4,859,240	5,382,903
純資産合計	35,006,440	37,665,097
負債純資産合計	60,738,259	63,146,831

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)
完成工事高	40,739,755	42,770,848
完成工事原価	34,343,552	35,668,365
完成工事総利益	6,396,203	7,102,483
販売費及び一般管理費	2,451,867	2,433,055
営業利益	3,944,335	4,669,427
営業外収益		
受取利息	1,188	1,139
受取配当金	118,852	138,867
受取賃貸料	19,612	15,355
スクラップ売却益	3,167	17,640
その他	15,287	19,010
営業外収益合計	158,107	192,013
営業外費用		
支払利息	21,199	13,372
シンジケートローン手数料	90,000	—
前受金保証料	10,270	13,544
その他	2,268	2,979
営業外費用合計	123,738	29,896
経常利益	3,978,704	4,831,545
特別利益		
固定資産売却益	532	—
投資有価証券売却益	50,684	—
圧縮未決算特別勘定戻入額	915,858	—
補助金収入	177,147	—
その他	11,397	—
特別利益合計	1,155,619	—
特別損失		
固定資産売却損	472	21,888
固定資産除却損	52,366	9,918
固定資産圧縮損	982,187	—
その他	77,558	—
特別損失合計	1,112,584	31,807
税金等調整前四半期純利益	4,021,740	4,799,737
法人税等	1,139,490	1,522,658
四半期純利益	2,882,249	3,277,079
非支配株主に帰属する四半期純利益	386,766	670,733
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,495,482	2,606,345

(四半期連結包括利益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)
四半期純利益	2,882,249	3,277,079
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	328,629	49,653
退職給付に係る調整額	31,164	26,723
その他の包括利益合計	359,793	76,377
四半期包括利益	3,242,042	3,353,456
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,852,938	2,680,083
非支配株主に係る四半期包括利益	389,103	673,373

## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することといたしました。これにより、従来まで工事契約に関する完成工事高の計上は、当連結会計年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事については工事進行基準(工事の進捗率の見積りは原価比例法)を、その他の工事については工事完成基準を適用しておりましたが、一定の期間にわたり充足される履行義務は、期間がごく短い工事を除き、履行義務の充足に係る進捗度を見積り、当該進捗度に基づき収益を一定の期間にわたり認識し、一時点で充足される履行義務は、工事完了時に収益を認識することとしております。なお、履行義務の充足に係る進捗率の合理的な見積りが出来ない工事については、原価回収基準を適用しております。また、履行義務の充足に係る進捗率の見積りの方法は、見積総原価に対する発生原価の割合(インプット法)で算出しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。ただし、収益認識会計基準第86項に定める方法を適用し、第1四半期連結会計期間の期首より前までに従前の取扱いに従ってほとんどすべての収益の額を認識した契約に、新たな会計方針を遡及適用しておりません。また、収益認識会計基準第86項また書き(1)に定める方法を適用し、第1四半期連結会計期間の期首より前までに行われた契約変更について、すべての契約変更を反映した後の契約条件に基づき、会計処理を行い、その累積的影響額を第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減しております。

これによる当第3四半期連結累計期間の損益に与える影響はありません。また、利益剰余金の当期首残高に与える影響もありません。

なお、「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号 2020年3月31日)第28-15項に定める経過的な取扱いに従って、前第3四半期連結累計期間に係る顧客との契約から生じる収益を分解した情報を記載しておりません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することといたしました。これによる四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

- I 前第3四半期連結累計期間（自2020年4月1日 至2020年12月31日）  
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント		その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	宮地エンジ ニアリング	エム・エム ブリッジ				
売上高						
外部顧客への売上高	27,916,036	12,876,892	3,602	40,796,531	△56,776	40,739,755
セグメント間の内部 売上高又は振替高	177,776	—	637,487	815,263	△815,263	—
計	28,093,812	12,876,892	641,089	41,611,795	△872,039	40,739,755
セグメント利益	3,058,884	934,925	539,293	4,533,103	△588,767	3,944,335

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに帰属しない当社（純粋持株会社）であります。  
2. 調整額の内容は以下のとおりであります。  
(1) 売上高の調整額は、工事進行基準売上高の調整額及びセグメント間取引消去であります。  
(2) セグメント利益の調整額は、工事進行基準利益の調整額2,786千円、セグメント間取引消去△489,757千円及び全社費用△101,796千円であります。なお、全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。  
3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

- II 当第3四半期連結累計期間（自2021年4月1日 至2021年12月31日）  
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント		その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	宮地エンジ ニアリング	エム・エム ブリッジ				
売上高						
外部顧客への売上高	24,702,953	18,171,791	2,456	42,877,201	△106,353	42,770,848
セグメント間の内部 売上高又は振替高	506,757	—	794,394	1,301,152	△1,301,152	—
計	25,209,711	18,171,791	796,850	44,178,353	△1,407,505	42,770,848
セグメント利益	2,669,277	2,008,410	687,751	5,365,439	△696,012	4,669,427

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに帰属しない当社（純粋持株会社）であります。  
2. 調整額の内容は以下のとおりであります。  
(1) 売上高の調整額は、セグメント間取引に係る進捗率調整及びセグメント間取引消去であります。  
(2) セグメント利益の調整額は、セグメント間取引に係る進捗率調整による影響額△10,438千円、セグメント間取引消去△576,475千円及び全社費用△109,098千円であります。なお、全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。  
3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 3. 補足情報

生産、受注及び販売の状況(連結)

## ① 生産の状況

セグメントの名称	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)		当第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)		前連結会計年度 (自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)	
	金額 (千円)	構成比 (%)	金額 (千円)	構成比 (%)	金額 (千円)	構成比 (%)
宮地エンジニアリング	27,808,344	70.9	24,627,826	57.8	35,052,963	67.6
エム・エムブリッジ	11,479,347	29.3	18,058,100	42.4	16,668,499	32.2
その他	3,602	0.0	2,456	0.0	3,938	0.0
調整額	△56,776	△0.2	△106,353	△0.2	111,737	0.2
合計	39,234,518	100.0	42,582,029	100.0	51,837,138	100.0

## ② 受注の状況

(受注高)

セグメントの名称	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)		当第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)		前連結会計年度 (自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)	
	金額 (千円)	構成比 (%)	金額 (千円)	構成比 (%)	金額 (千円)	構成比 (%)
宮地エンジニアリング	30,692,058	54.5	20,813,468	51.1	36,627,837	51.8
エム・エムブリッジ	25,599,788	45.5	19,926,287	48.9	34,064,111	48.2
その他	3,602	0.0	2,456	0.0	3,938	0.0
合計	56,295,449	100.0	40,742,212	100.0	70,695,887	100.0

(受注残高)

セグメントの名称	前第3四半期連結会計期間末 (2020年12月31日)		当第3四半期連結会計期間末 (2021年12月31日)		前連結会計年度末 (2021年3月31日)	
	金額 (千円)	構成比 (%)	金額 (千円)	構成比 (%)	金額 (千円)	構成比 (%)
宮地エンジニアリング	48,655,226	55.0	43,415,341	50.3	47,304,826	53.6
エム・エムブリッジ	39,817,890	45.0	42,963,112	49.8	41,208,616	46.6
その他	—	—	—	—	—	—
調整額	△29,325	△0.0	△91,485	△0.1	△197,838	△0.2
合計	88,443,791	100.0	86,286,968	100.0	88,315,604	100.0

## ③ 販売の状況

セグメントの名称	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)		当第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)		前連結会計年度 (自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)	
	金額 (千円)	構成比 (%)	金額 (千円)	構成比 (%)	金額 (千円)	構成比 (%)
宮地エンジニアリング	27,916,036	68.5	24,702,953	57.8	35,202,215	63.7
エム・エムブリッジ	12,876,892	31.6	18,171,791	42.5	19,950,490	36.1
その他	3,602	0.0	2,456	0.0	3,938	0.0
調整額	△56,776	△0.1	△106,353	△0.3	111,737	0.2
合計	40,739,755	100.0	42,770,848	100.0	55,268,380	100.0